

Sumida Leading Factory 2020

Introduction of selected companies

すみだリーディングファクトリー
選定企業紹介

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

多彩な「ものづくりのまち」で選ばれた すみだリーディングファクトリー。

墨田区は江戸の時代から長い歴史を持つ、
多種多様で生活に身近な製品をつくる「ものづくりのまち」。
そして令和の今でも、その伝統は続いています。
印刷・紙加工から金属加工、プラスチック製品、繊維製品、
皮革製品、木工品、ガラス製品まで。
新しい発想を常に大切にしてきた「ものづくりのまち」だからこそ、
たとえ規模は小さくても、創意工夫にあふれ、
日本国内に留まらない広い視野を持った、
その時代の「ものづくり」を目指す企業や町工場が集積しています。
「すみだリーディングファクトリー」は、高い技術や技能はもちろん、
これからの時代の大切な価値観を共有する、
優れた企業や町工場にスポットを当ててきました。
今回選ばれた企業や町工場のキラリと光るその魅力に触れて、
新しい時代を一緒につくりませんか。

すみだリーディングファクトリー2020

〈技術・技能部門〉
株式会社東電工舎
墨田区吾妻橋
(Map ①)

〈技術・技能部門〉
吉田テクノワークス
株式会社
墨田区文花
(Map ②)

〈就労環境整備・
人材育成部門〉
株式会社ヨシズミプレス
墨田区立花
(Map ③)

〈SDGs推進部門〉
株式会社タック印刷
墨田区業平
(Map ④)

すみだリーディングファクトリーとは

墨田区では、特徴的かつ先進的な視点で独自の取り組みを行う区内のものづくり企業を選定し、顕彰を行っています。選ばれた各企業の優れた点を区内外に広くPRすることで新しい取り組みへの挑戦を応援し、ひいては社会をより豊かにしていくことが目的です。

すみだリーディングファクトリーの選定部門

〈技術・技能部門〉

優れた技術・技能を有する区内の中小企業を選定します。

〈就労環境整備・人材育成部門〉

障がい者雇用等、多様な人材の就労環境整備及び人材育成に力を入れ、特に顕著な実績を有する区内中小企業を選定します。

〈SDGs※推進部門〉

SDGsの目標達成に貢献する取り組みを、積極的に行っている区内中小企業を選定します。

※SDGs (Sustainable Development Goals)

2030年までに世界が目指す「持続可能な開発目標」のこと。貧困や差別の解消、教育、環境保全など17の目標が掲げられています。2015年の国連総会でそれまでのMDGs（ミレニアム開発目標）にかわる世界全体で取り組むべき目標として採択されました。



〈SDGs推進部門〉
株式会社浜野製作所

墨田区八広
(Map ⑤)

〈SDGs推進部門〉
DOC Japan 株式会社

墨田区江東橋
(Map ⑥)

〈SDGs推進部門〉
山口産業株式会社

墨田区東墨田
(Map ⑦)

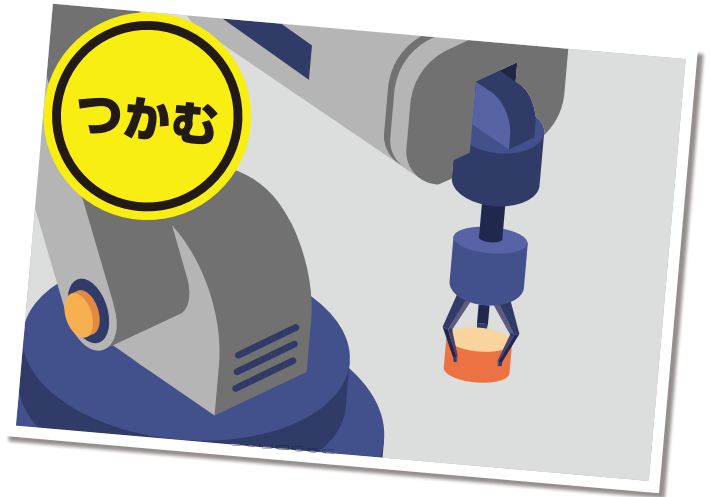
〈SDGs推進部門〉
有限会社コイデ東京

墨田区東駒形
(Map ⑧)

特許取得の 「すべらないめっき」は さまざまな工場の 製造ラインで活躍

〈技術・技能部門〉選定

株式会社東電工舎
〈電気めっき〉



1924年、大正時代創業の株式会社東電工舎。クロムめっきを中心にニッケル、銅など多種多様なめっきを取り扱う。代表取締役である山田英佐夫さんは三代目。「現代の名工」にも選ばれている特級めっき技能士でもある。6人の従業員で少量多品種を扱う東電工舎は、高等職業訓練校にも全員通わせるなど、技能の育成にも力を注いできた。高品質化を目指すめっき技術に加えて、2015年には円筒研削盤を導

入。金属加工も行えるようになり、一貫しためっき関連技術を確立している。また最近ではめっき皮膜の中に特色ある物質を含有させ、その特性を表出させる「複合めっき」が同社の強みとなりつつある。

抗菌性、芳香性などの機能めっきも

2012年に他社と共同開発し、特許を取得したのが「すべらないめっき」だ。本来のなめらかさから、逆転の発想で20~50μmという球状のセラミック粒子をめっきに使用。セラミック

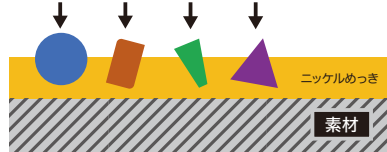


が丸いため対象物を傷つけずに搬送でき、耐久性もアップするため印刷機に採用されている。またグリップ力も持つため工業用ロボットなど物をつかむ場面でも活躍する。さらに、セラミックを固着したテフロン加工では耐摩耗性が4倍に伸び、撥水性も向上。一方、多孔質の鉱石、ゼオライトを使用し、抗菌性あるいは芳香性のあるめっきも登場している。この「複合めっき」技術は粒子の種類や大きさ、密度の調整により、目的や希望に応じた摩擦面、機能性が実現できる。



すべらない表面処理の仕組み

■断面図
粒子(10~μm、球状~尖状、粗~密を組み合わせる)



Message

1931年に江東区亀戸からこの墨田区の地に移転。この場所で長年にわたり、めっき技術の開発やめっき技術のシステム化を進めてきました。お客様のご要望にお応えし、品質から納期まで安心してまかせられる企業であろうとする一方、環境への配慮も常に考えてきました。近年、セラミック、ゼオライトなど新しい素材を使用した「複合めっき」を開発。これまでの「何に使えるのか」というニーズの模索から、一歩進んでめっきの機能をプレゼンテーションすることも考えています。大学とも連携し、次世代技術としてめっきの可能性を追求していきたいですね。

代表取締役 山田 英佐夫

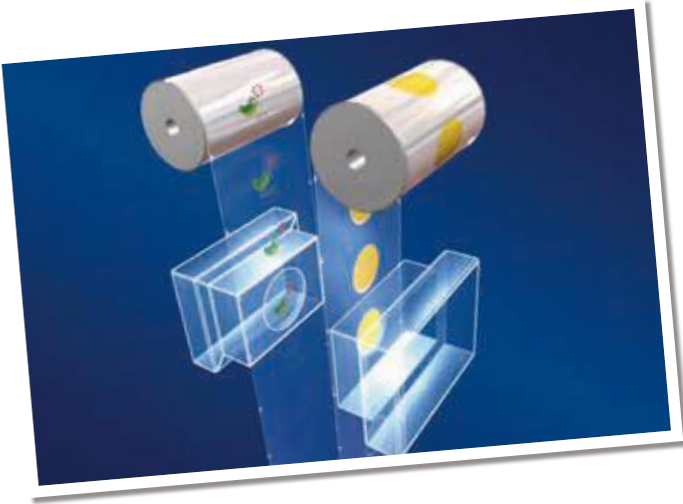
株式会社 東電工舎

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋3-10-9
TEL. 03-3622-8111 FAX. 03-3622-8107
HP : <http://www.azuma-p.co.jp>
E-mail : office@azuma-p.co.jp

世界初のインモールド成形技術で プラスチックの 現代工芸を目指す

〈技術・技能部門〉選定

吉田テクノワークス株式会社
〈プラスチック製品製造〉



1946年「吉田製作所」として創業。化粧品のコンパクトケースやチューブ、ボトル容器などを広く製造し、独自の開閉機構や気密性などの技術で「コンパクトの吉田」ともいわれた。金型にシートを挟み込み、絵柄をプラスチックに転写するインモールド技術を1973年に世界で初めて開発。この技術が進化し、2000年には表と裏、2枚のシートをプラスチックに挟み込むダブルイ

ンモールド技術を生み出す。絵柄や背景など表裏両面を同時に加飾できるこの技術により、プラスチックの厚みを生かした立体的で多彩なデザインが可能に。また液晶画面を美しく見せるため、カメラ付き携帯電話には不可欠な技術となった。2枚のシート位置の正確さを求められるこの技術を持つのは、今でも世界で数社のみという。4年後、コスメ部門と分社化し、「吉田テクノワークス」が誕生する。

曲面ガラスを挟む 世界最高峰の技術

インモールド成形はさらに進化。美しさやデザイン性が広がる一方で、UVや反射、指紋の付着などを防ぐ機能性も追加された。ガラスインサートインモールドでは、筐体にガラスを貼る際に生じるわずかな段差、「公差」が消

えた。また、2016年には湾曲した曲面ガラスに140tもの圧力をかけながらも、壊さず成形できる曲面ガラスインサートインモールドを開発。いずれも世界最高峰の技術として現在は車載パネルや車載カメラ、ATM、レーザー関連から引き合いがあるという。一方、2013年からは一流デザイナーと連携。自社ブランド「ornament〈オーナメント〉」を立ち上げ、アートとしても活躍の場を広げている。



Message

これまで私たちが主に技術を提供してきた、日本の家電産業、携帯電話産業が大きく様変わりし、ものづくりも転換期を迎えています。それでもこの日本でものづくりを続けたいという強い想いがあります。お客様から求められるだけでなく、私たちがつくりたいものをつくろうと、自社ブランド「ornament〈オーナメント〉」、そして和テイストの「吉（KICHI）」を立ち上げました。おかげさまでオーナメントのカードケースは45,000個を販売。インモールドの技術にこだわりを持ちつつ、さらに広い分野を目指していきたいと考えています。



代表取締役社長 吉田 重雄

吉田テクノワークス 株式会社

〒131-0044 東京都墨田区文花2-11-12
TEL. 03-3610-0081 FAX. 03-3613-0228
HP : <http://www.yoshida-tw.co.jp>
E-mail : yk_adm@yoshida-group.co.jp

社員教育と品質向上の 取り組みで 高精度の 順送プレス加工を実現

〈就労環境整備・人材育成部門〉選定

株式会社ヨシズミプレス
〈精密金属プレス加工〉



1950年に足踏みプレスからスタートし、創業70年を迎えた株式会社ヨシズミプレス。現在、自動プレス機が34台、ほかに金型の工作機械など24台もの設備を備え、金型製作から順送プレス加工まで一貫した生産体制を築く。同社の強みは充実したハード面以上に、精度を守るためのソフトな取り組みにもある。17名の社員で文房具の金属部品、電池関連部品、自動車部

品などを中心に製造。なかにはプレス加工が困難とされる高付加価値の部品、多種多彩な注文にも対応する。その一方で、多いものでは月産200万個という量産も実現している。プレス作業の最大の課題は、注文初期の品質をいかに維持管理するかという点だが、量産の経過で生じる製品の劣化を防ぐために「加工チェックリスト」を活用。過去の不良品の写真と修正内容などを記録し、データとして残すことで、常に確認を行っている。



したコンサルティングでは第一人者とされる山口文雄氏と個別に契約。同氏を指導者として招き、勉強会や工場内のチェックを行っている。勉強会では就業時間内の3時間、完全に機械を止め、事務担当者も含めた社員全員が参加。感想文も全員が書くという徹底ぶりだ。最初は戸惑っていた社員も、今では積極的に質問も行う。進化する最新技術を取り入れ、作業全体を改めて見直すいい機会になっているという。

全社員参加で行う 3時間の「勉強会」

同社が独自に行っているもうひとつの取り組みが、2017年より月2回程度行っている「勉強会」だ。長年、すみだ中小企業センター技術指導員を務め、金型からプレス加工まで現場に即



Message

社員教育、品質向上を目指す取り組みと並行して、社員の健康への配慮や、何でも話し合える職場環境の見直しも行ってきました。その流れから自然に社員が自分の製品を回覧し、みんなでチェックするようになりました。不良品の減少や品質向上はもちろん、月産で1,000万個以上の仕事が入ったときは、全員で結束して達成。長い目で見ると、教育制度などの仕組みづくりがさまざまな効果をもたらしている気がします。現在、プレス屋ならではの発想で金属材料の巻き癖を容易に矯正できるオリジナルの簡易レベラー「ガンチャンレベラー」を製造。場所を取らずに取り付け可能で特許も取得。大手企業にも納入しています。

専務取締役 吉住 研

株式会社 ヨシズミプレス

〒131-0043 東京都墨田区立花4-28-2
TEL. 03-3612-7541 FAX. 03-3612-2819
HP : <https://www.yoshizumi-press.com>
E-mail : info@yoshizumi-press.com

「働き方の改革」

「製造の見える化」で
急ぎの案件にも
素早く対応

〈SDGs推進部門〉選定

株式会社タック印刷
〈ラベルシール製造〉

かつてどの家の玄関にも貼られていたNHK放送受信章をはじめ、工業製品に貼られる製品ラベルなどの印刷を手掛けてきたのがタック印刷だ。2016年、同社は東京都の「働き方改革宣言企業」に町工場で初めて手を挙げた。優秀な人材確保のためには、宣言にふさわしい企業として効率化やシステム化が不可欠との判断からだった。100%男性で特定の技術者に業務が集中し、残業も多かった製造の現場を見直し、当時20歳の女性技術者を配置するな

ど、社内の意識改革に努めた。一方、丸1日かけていた受注入力を完全に自動化したり、各フロアのタブレットで、受注から作業状況、在庫確認に至るまで全員が把握できる「製造の見える化」を図った。これらの取り組みにより急ぎの案件にも素早い対応が可能となったとともに、定時退社や休暇取得率の向上、先輩・後輩従業員のコミュニケーションが増え、技術の向上にもつながっている。

アメリカの製品安全規格
「UL規格」の資格を取得

同社は従業員数22名の町工場だが、1982年には第1回FINAT世界ラベルコンテストにおいて優勝。以降、たびたび入賞もしている。リーマンショック以降は、価格競争による受注よりも、独自性を強みにする方向へと転換。2011

年には業界初となるレーザーマーカを導入した。レーザーによって、耐久性が求められるラベルなどの技術も確立した。またアメリカの製品安全規格、UL規格を扱う資格も取得。町工場で取得している会社は少ないが、お客様の求めるニーズや品質に応えるために技術と品質向上に努める姿勢が、精密機器の設計開発部門などの新たな取引につながってきている。



Message

「働き方改革」はただ優秀な人材がほしいという気持ちからでしたが、そのおかげでいい人材は男性女性関係なく採用していること、ゆとりを持って働ける企業という印象が伝わり、人材確保の苦勞がなくなりました。人材が安定していることが、製造現場へのいい刺激にもなっています。また、レーザーマーカ導入により小ロット多規格に対応できるようになり、他社が撤退するなかでUL規格に特化することは営業時の強みになりました。いずれも弊社のような町工場にはかなりの冒険でしたが、これからは少しだけ背伸びをして、今の技術より上のことに思い切ってチャレンジしていきたいと考えています。



代表取締役 高田 朋幸

株式会社 タック印刷

〒130-0002 東京都墨田区業平1-9-7
TEL. 03-3623-4034 FAX. 03-3626-2078
HP : <https://www.takprint.co.jp>
E-mail : label@takprint.co.jp

「Garage Sumida」と 「ものづくり相談サービス」 で次世代のものづくりの 拠点に

〈SDGs推進部門〉選定

株式会社浜野製作所
〈金属加工〉



43年の歴史があり、金属加工の技術を基盤に最先端のロボットや装置の設計・開発まで幅広く行っている浜野製作所。同社が今、注目を集めているのが「Garage Sumida」の存在だ。

元々は、量産品の部品加工を行ってきたが、製造業として生き残り、東京でもものづくりを行う価値を実現する拠点「Garage Sumida」を2014年にオープン。2016年には研究開発型ベンチャー支援を行う企業と資本業務提携

を行う。3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタルファブリケーションと本格的な金属加工を組み合わせ、製品開発における試作から量産化に至るまで支援。新しいものづくりを目指す起業家や研究機関、大企業が集うインキュベーション施設（事業の創出や創業を支援する施設）を備えた開発拠点へと進化した。

町工場発のものづくりで 社会課題解決をサポート

Garage Sumidaでは、オープン以来、年間200件以上の相談を受けている。

台風でも発電できる可能性をもつ株式会社チャレナジーの次世代型風力発電機や、孤独の問題を解決するツールとして分身ロボットを開発する株式会社オリイ研究所のロボット「OriHime(オリヒメ)」も同社の技術とネットワークを活かして



©香川 賢志



事業成長につなげている。ものづくりのサポートは、協力してくれる町工場にとっても新たな販路開拓や技術向上などにつながることを目指している。多様な案件に対応していく中で2019年には「ものづくり相談」をサービス化した。社会課題解決を目指す人々を応援するとともに、世界に向けて町工場発のものづくりを発信している。



Message

弊社は2012年の電気自動車「HOKUSAI」、深海探査船「江戸っ子1号」などのプロジェクトをきっかけに、企画や設計も含めたものづくりに積極的にかかわるようになりました。Garage Sumidaで手掛けるプロジェクトはまだ世の中に無いものも多くありますが、それらの価値を具現化し、社会課題の解決をするための活動をしています。浜野製作所にはこれまで多くの相談を受け、かたちにしてきたノウハウの蓄積があります。さらに2020年夏には外部の研究者やプロの方にも参加していただく「Garage Sumida 研究所」を立ち上げました。「モノをつくる」というだけでなく、価値を実現し、「コトづくり」を行う情報プラットフォームとしての役割も目指しています。

代表取締役社長 浜野 慶一

株式会社 浜野製作所

〒131-0041 東京都墨田区八広4-39-7
TEL. 03-5631-9111 FAX. 03-5631-9112
HP: <https://www.hamano-products.co.jp/>
<https://garage-sumida.jp>

世界各地の パートナーとともに 持続可能な 化粧品原料を創出

〈SDGs推進部門〉選定

DOC Japan株式会社
〈化粧品原料製造〉



化粧品やシャンプー、コンディショナー、洗顔料、ボディウォッシュなどに使われる原料を開発・製造しているDOC Japan。社名の由来である「Delivering Optimized Chemistry™」をコーポレートタグラインに掲げ、ニーズに最適化した化学組成の原料を開発。お客様となる化粧品会社はその原料をほかの原料と配合して最終製品として

完成させる。毛髪通り性評価などさまざまな測定データを駆使しながら、感触やなめらかさ、泡質など「感性」にこだわる原料開発が同社の強みでもある。日本、米国、欧州、中国で国際特許を取得したDOCSilFee® YA-30Hはツバキ種子油、マカデミア種子油など天然由来の成分を使用。スキンケア製品にも使用するエモリエント成分により、髪を自然な手触りの指通りのいい元気な状態に戻す。この疎水性の回復技術が特許へとつながった。

利島のツバキ種子収穫をサポート

日本をはじめ欧州など各地の協力製造先とともに幅広く製品を開発している同社は、ジャガイモのでんぷんやマメ科のタラガムなど、天然由来成分も積極的に採用。もちろん天然由来には

コストがかかり、機能面で必ずしも化学合成原料に勝るわけではないが、廃棄時の環境への配慮、消費者や取引先の支持が背景にある。また、伊豆諸島の利島農協と協力しツバキの種子油を購入しているが、2019年10月の収穫期には高齢化で人手不足が深刻な現地に学生のアルバイトを派遣。種子の収穫を手伝うなどの取り組みを通して、地球や人にやさしい化粧品原料づくりを進めている。



Message

化粧品業界での長い経験と専門知識を生かし、9年前に起業しました。弊社は、パートナーである国内外の協力製造先とのコラボレーションによって、最適化した原料をお客様に届ける努力を続けています。創業以来のお付き合いのある協力製造先、また製品化まで7年を要した協力先もあります。そんなパートナーとの信頼関係とともに、毎日使っていただく最終製品に配合される原料を生み出す側の責任も感じながら環境への負荷、働く人への負担などに配慮しています。これらの取り組みを通じて、各最終製品の機能に合う効果的な原料をご提供するとともに、日本の化粧品会社が海外でも活躍できるお手伝いをしたいと考えています。



代表取締役社長 大川 彰子

DOC Japan 株式会社

〒130-0022 東京都墨田区江東橋 4-24-6
エクセルシオール錦糸町 802
TEL: 03-6666-9946 FAX: 03-6666-9947
HP: <https://www.docjapan.com>
E-mail: info@docjapan.com

「ラセッターなめし」
技術で人と自然に
「やさしい革」のある
暮らしを実現

〈SDGs 推進部門〉選定

山口産業株式会社
〈皮革製造〉



現在、世界中で流通する革の9割以上は重金属系の薬品を使用するクロムなめしによるもの。環境汚染やアレルギーに配慮した、植物タンニンなめしはクロム同様の丈夫で柔らかい革に仕上げるのが難しく、あまり普及が進んでいないのが現状だ。今年創業82年になる山口産業は30年ほど前、動物の皮に含まれるコラーゲンたんぱく質の繊維構造を知り尽した独自の技術で、植物タンニンなめしの弱点を補う「ラセッターなめし」を開発。柔らかく強靱



Message

MATAGIプロジェクトを最初に始めた2008年以来、大学や企業、市民団体と交流し、社団法人の立ち上げに至りました。弊社独自の技術が世界的な共通の目標にマッチできるのではないかと、進めてきたのが今の3つのプロジェクトです。日本は年間6億6千万足を消費する靴の消費大国ですが、国産の革靴は数千万足程度。国内の皮革産業は依然として厳しい状態です。国産靴のシェアを1%回復するだけでも、まったく違います。高齢化の中でも現役で頑張る多くの革や靴の職人さんのためにも、メーカーや皮革産業関係者、そして同業者のみならずとも連携し協力し合いながら、さまざまな取り組みを通じて日本の皮革産業を活性化していければと考えています。

代表取締役社長 山口 明宏



で、乳幼児や敏感肌の人にもやさしく、利用後は土に還すこともできる。同社はこの技術が現代社会の課題に貢献し得る技術であるという理念のもと、同業者や皮革関連のメーカー、ファッション関係者も含めた幅広い人間関係を構築。ここ10年低迷している国産の革の生産についても付加価値を高めて日本独自の革文化を創造しようとさまざまな取り組みを行っている。

持続可能な事業で、
持続可能な社会を

2017年、一般社団法人「やさしい革」を設立。3つのプロジェクトでノンクロムや動物や人、自然環境への配慮を目指す取り組みを進めてきた。駆除された野生動物の皮を有効利用する「MATAGIプロジェクト」は、活用産地が400カ所に広がり年間3,000枚もの獣皮を活用。



2020年にはポストバッグの受注生産を実現している。また、「ハッピーピッグプロジェクト」では、家畜動物の福祉、生育環境に配慮した農場のブランド化を進めている。これらの技術は趣旨に賛同する方々とも共有したいと考えており、「MONY (モニー) プロジェクト」では、世界有数のなめし革輸出国であるモンゴルに自社の技術を提供している。

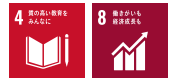
山口産業 株式会社

〒131-0042 東京都墨田区東墨田3-11-10
TEL. 03-3617-3868 FAX. 03-3613-3239
HP : <https://www.yamaguchi-sangyou.co.jp/>
E-mail : master@yamaguchi-sangyou.co.jp

ブナ材の 安全なおもちゃと ミニカーレースで 木に親しむ「木育」を

〈SDGs推進部門〉選定

有限会社コイデ東京
〈木製玩具製造〉



安全で知育性の高い上質な木のおもちゃと木工品を作り続けている有限会社コイデ東京。玩具の素材として使用している木材の99%が、木肌が緻密でささくれが起きにくく、子どもの手にも安全なブナ材だ。同社の木工技術の高さは丸みを帯びた玩具や「汽車ポッポ」などの乗り物、「木のタイヤ」などで発揮される。子どもの乗り物は座って転倒しないよう前方に傾きをつけてある。またタイヤや球などは木工用の轆轤（ろくろ）で木材を削っていく

が、スムーズに回転する車輪を作る同社のような技術は国内でも数少ない。

木製ミニカーで楽しむ『モクワングランプリ』

木に触れる「木育」への関心が高まっているが、もっと多くの地域で木育体験してもらおうと同社をベースに開催されてきたのが『木のミニカーレース モクワングランプリ』だ。使用するミニカーはカーデザイナーが監修。木のタイヤなどの高度な技術を生かしつつ、重さなどの制限も本格的に設定。さらにインテリアとして大人も欲しくなる物に

している。イベントはスピードや勝ち負けだけでなく、自分で作ることで創意工夫や達成感などの五感を刺激する内容になっており、4~5年にわたり、年2回程度全国各地のイベント会場などで開催された。新型コロナの影響で現在は休止となっているが、木製カーのキットを使用したワークショップなどの形で、子どもから大人まで楽しめる企画を模索中である。



Message

子ども時代のおもちゃは、成長に大切なもの。30~50年使用することができるのが、コイデ東京のおもちゃです。親、子、孫と3代で使い続ける方もいます。ブナはどんぐりや保水力など日本の豊かな森を象徴する木でもあります。しかし、乾燥や加工が難しく時間がかかるため、ブナ材を扱える技術者はごくわずか。直径4~90mmの木の球も製作していますが、真球に近い球を作ることができる人もまた、全国に50人もいないのではないのでしょうか。国内でも木工技術から木のすべてをわかる人材が増えるのを願うばかりです。



代表者 目黒 道夫

有限会社 コイデ東京

〒130-0005 東京都墨田区東駒形4-11-8
TEL : 03-5608-2791
HP : <https://www.koide-woodtoys.jp>
E-mail : info@koide-woodtoys.jp

すみだリーディングファクトリー。
日本を、世界をリードする。
それは、このまち、すみだから。

すみだリーディングファクトリー 2018

〈技術・技能部門〉

岩澤硝子株式会社
株式会社塩入製作所
墨田革漉工業株式会社
墨田硬質クローム鍍金有限会社
向島めうがや
山口産業株式会社
株式会社ヨシズミプレス

〈就労環境整備・人材育成部門〉

株式会社東電工舎
竹内工業株式会社
吉田テクノワークス株式会社

〈地域貢献活動部門〉

バキュームモールド工業株式会社

すみだリーディングファクトリー 2020

〈技術・技能部門〉

株式会社東電工舎
吉田テクノワークス株式会社

〈就労環境整備・人材育成部門〉

株式会社ヨシズミプレス

〈SDGs推進部門〉

株式会社タック印刷
株式会社浜野製作所
DOC Japan 株式会社
山口産業株式会社
有限会社コイデ東京

すみだリーディングファクトリー 2020

令和3年2月発行
発行：墨田区産業観光部 産業振興課
〒130-8640 墨田区吾妻橋1丁目23番20号 区役所14階
電話：03-5608-1437

本誌掲載内容の無断転載を固く禁じます